

研究論文

特別支援教育専門性向上研修プログラムの開発

日野 久美子*¹ ・ 井邑 智哉*¹ ・ 納富 恵子*² ・ 中山 健*³

Development of special needs education specialization training program

Kumiko HINO, Tomoya IMURA, Keiko NOTOMI and Takeshi NAKAYAMA

【要約】

本研究では、特別支援教育専門性尺度（日野他，2019）を元に、「子どもの理解・子どもの指導・子どもの支援・子どもを支える」の4つのセッションから成る「特別支援教育専門性向上研修」を計画実施した。各セッションは、①Web教材等を活用した事前学習、②演習を入れた当日研修、③受講生自身による事後学習、の3つで構成された。研修後の受講生の満足度は高く、今後の規模を拡大した研修実施への示唆が得られた。

【キーワード】

・特別支援教育の専門性 ・研修プログラム ・特別支援教育担当教員 ・特別支援教育専門性尺度

問題と目的

平成19年に導入された「特別支援教育」により、小・中学校の全体の児童生徒数が減少する中、特別支援学級や通級指導教室における、専門的な支援を求める子どもの数は急増している（文部科学省，2020）。この背景には、特別支援学校だけでなく小学校や中学校（以下、通常学校）においても、「子ども一人ひとりの教育上のニーズを把握し、学習面や生活面での問題を解決するための指導と支援を行う」（柘植，2013）という特別支援教育の理念の元に、教育が広く行われるようになってきたことがある。これらの子どもや特別支援学級、通級指導教室の増加に伴い、それらを受け持つ小・中学校の特別支援学級担任および通級指導教室担当の教員（以下、特別支援教育担当教員）も増加している（文部科学省，2020）。このような状況の中、学校がかかえる喫緊の課題の一つである特別支援教育への方策を考えると、これら特別支援教育担当教員の資質、つまり「特別支援教育に関する専門性」の有無が、大きな鍵を握っているといえる。

特別支援教育に関する研修としては、これまで、例えば「LD・ADHD等の心理的疑似体験プログラム」を活用し、参加型・体験型のワークショップを用いて、教職志望の大学生や小学校教師を対象として行った秋元・落合（2009）や、公立学校小学校教員を対象として行った保坂・保坂（2008，2014）等の研究が見られる。いずれも、体験プログラムが子ども理解を促進し指導・支援方法を考える上で適切な内容であることを示唆するなど、教師全般を対象とした研修内容や形態については多くの研究が見られる。一方、岡本（2017）は、障害のある子どもの指導・支援に関する研修の研究動向を、2000年から2016年における40編の論文から概観しているが、その研修対象には小学校教師・中学校教師・

*¹ 佐賀大学大学院学校教育学研究科 *² 福岡教育大学大学院教育学研究科 *³ 福岡教育大学教育学部

特別支援学校教師というような区分はあるものの、特別支援学級担任や通級指導教室担当といった分類は見られない。一方、本間他（2019）は、文部科学省中央教育審議会答申・報告をもとに平成8年（1996年）から平成28年（2016年）頃までの特別支援教育にかかる研修の動向を整理している。その第3期（平成24～28年頃：インクルーシブ教育システム構築期における特別支援教育の現職研修の動向）においては、「通常教育と特殊教育のような二元的構造ではなく学校全体の特別支援教育に関わる課題を解決するための現職教員の研修の在り方が提唱された」とし、平成24年（2012年）の中央教育審議会の答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」の中から、「特別支援学級・通教による指導の担当教員は特別支援教育の重要な担い手であり、その専門性が校内の他の教員に与える影響も極めて大きい。このため、専門的な研修の受講等により、専門性の確保・向上を図る」ことを取り上げ、「特別支援学級・通級による指導の担当教員もスペシャリストとしての専門性を持つべきだとされた」ことを指摘している。これにつづけて本間他（2019）は、平成24年答申では、「通常学級の教員についても、特別支援教育に関する一定の知識・技能を有していることが求められている。」ことを取り上げ、通常教員に対してはジェネラリストとして「特別支援教育に関する研修の受講等により、基礎的な知識・技能の習得を図る」ことが期待されていることも合わせて指摘している。このように、通常学校における特別支援教育の充実のために、特別支援教育担当教員の専門性向上を目指すための研修を行うことの意義は大きいといえる。

ところで、特別支援教育担当教員に求められる専門性に関わる研修を計画する上では、この専門性とは何か、それをどのように評価するのかということをも明らかにする必要がある。韓・小原・上月（2014）は、体の健康・心の健康・社会生活機能という3因子からなる特別支援教育成果評価尺度（SNEAT）の開発に取り組み、渡邊（2016）は、指導困難対応効力感・指導遂行効力感から、知的障害児対応教師効力感尺度の作成に取り組んでいる。さらに、日野・井邑・納富・中山（2020）は、特別支援教育に関する研修会に参加した教員を対象に予備調査を行い、小・中学校の特別支援教育担当教員の専門性向上のための資質・能力を9つのカテゴリーに分類した。これを元に、A県の公立小・中・高校のうち、特別支援学級及び通級指導教室の設置校の特別支援学級担任及び通級指導教室担当の全教員を対象とし、特別支援教育担当教員の専門性を測定するための特別支援教育専門性尺度を作成し調査を行った結果、「特別支援教育や障害全般に関する知識や理解」「子どもや保護者との信頼関係」「子どもの指導の計画と実践」「教材の作成や活用」という4因子が得られた。

本研究では、特別支援教育担当教員の専門性向上を目指すことを通して特別支援教育の充実を図るべく、日野他（2020）の4因子に基づき、特別支援教育担当教員を対象とした研修プログラムを開発することを目的とする。

なお、本研究は、佐賀大学大学院学校教育学研究科研究倫理審査委員会の承認を受けて行った。

方 法

研修参加者

研修の募集はA県の教育委員会の教育情報システムを用いて、A県の全ての公立小・中・高校の特別支援学級担任及び、通級指導教室担当教員を対象に行なった。その結果、18名（小学校：13名、中学校：4名、高校1名）から応募があり、そのうち特別支援学級担任が14名（知的学級：3名、肢体不自由：1名、病弱：1名、自閉症・情緒：9名）、通級指導教室担当が4名（言語障害：1名、LD・ADHD等：3名）であった。研修は4つあるセッションのうち、自分の希望により複数選択できるようにしたため、各受講者が4つのセッションのいずれかに参加した。

研修プログラム

教員研修プログラム「特別支援教育専門性向上研修」は4つのセッションから成り、1つのセッションは、「①事前学習」と、「②当日研修」及び、「③事後学習」という三つを組み合わせで構成した。なお、「①事前学習」と「③事後学習」は受講生の自己学習である。

「①事前学習」には、国立特別支援教育総合研究所の「インターネットによる講義配信」から指定した講義及び「支援教材ポータル」を利用し、受講者が各自で事前に研修して「②当日研修」に参加するようにした。セッションIでは、「検査の意義とアセスメントーアセスメントの目的と意義ー（基礎編 1102）」、セッションIIでは「学習指導要領と教育課程の編成及び配慮事項（基礎編 0004）」、セッションIVでは、「特別支援教育におけるカウンセリング技法（専門編 0004）」を事前に視聴してもらった。またセッションIIIでは、国立特別支援教育総合研究所の支援教材ポータルサイトを利用して、教材や事例を検索することを事前学習とした。

各セッションの「②当日研修」は、2018年11月～2019年1月の水曜日18:00～20:00（全4回）で、会場はA大学 ICT ルームにおいて実施した。I～IVセッション毎にそれぞれ、11・17・15・12人の参加であった。この研修には、以下のようなねらいと、それに応じた実践につながる演習を中心とした内容を取り入れた。

「③事後学習」については、「②当日研修」の最後に、その日の研修に関連する研修内容・方法等の情報をまとめた「自己学習カード」を提供し、その後の受講者の自己学習につながるようにした（Appendix1～4を参照）。

セッションI「子どもの理解（アセスメント）」 効果的な指導につなげるための子ども理解のポイントを知ることねらいとして、子どものかかえる困難さを理解するため、アセスメントに関する基礎的な知識と、疑似体験を通して感じることから、子どもを理解することについて学ぶ（Table 1）。

Table 1 セッションIの研修計画

1. 日時	2018年11月14日(水)18:00～20:00
2. 場所	A大学 ICT クラスルーム
3. テーマ	子どもの理解(アセスメント)
4. ねらい	効果的な指導につなげるための子ども理解のポイントを知る
5. 研修内容	子どものかかえる困難さを理解するため、アセスメントに関する基礎的な知識と、疑似体験を通して感じることから、子どもを理解することについて学ぶ。 また、担任や担当として必要な障害についての知識を得るための情報を知ることができる。
6. 事前学習	(特総研 Web) 基礎編1102 「検査の意義とアセスメントーアセスメントの目的と意義ー」 ・アセスメントの目的と意義について、基礎的・基本的な内容について知る
7. 当日演習 (主な内容・資料)	(1)事前学習の確認 ・検査器具(WISC-4, KABC-II, LDI-R, WAVES, STRAW-R, S-M等)の実物や、医療機関受診時の学校情報提供についての参考資料を知る (2)本日の演習 ①障害による困難さを体験する(視覚認知と聴覚認知の困難さの疑似体験) ②認知の特性の把握という観点から、自分の担当している障害による困難さについて、話し合いを通して気づく・確認する (3)事後学習の情報について知る ・教育支援資料, DSM-V, 就学判断基準 他
8. 事後学習	Appendix 1 参照

セッションII「子どもの指導（自立活動）」 効果的な指導につなげるための自立活動について知ることのねらいとして、特別な教育課程の基本である自立活動を、子どもに応じてどのように組み立てていくか学ぶ（Table 2）。

Table 2 セッションIIの研修計画

1. 日時	2018年11月28日(水) 18:00～20:00
2. 場所	A大学 ICTクラスルーム
3. テーマ	子どもの指導(自立活動)
4. ねらい	効果的な指導につなげるための自立活動について知る
5. 研修内容	特別な教育課程の基本である自立活動を、子どもに応じてどのように組み立てていくか学ぶ
6. 事前学習	(特総研 Web) 基礎編 0004 (3) 学習指導要領と教育課程の編成及び配慮事項 ・学習指導要領と教育課程の編成及び配慮事項の基礎的内容について理解する
7. 当日演習 (主な内容・資料)	(1) 事前学習の確認 ・個別の指導計画・自立活動の指導計画・個別の教育支援計画の関係を確認し自立活動の内容等について学習指導要領解説「自立活動編」で確認する。 (2) 本日の演習 ①各自持参の個別の指導計画・教育支援計画・自立活動計画について、作成にあたっての課題をグループ・全体で共有する。 ②自立活動計画作成のポイントを知ると共に、①の課題解決についても、グループで考え、全体で共有する。 (3) 事後学習の情報について知る ・教育センター研究成果, 関連書籍 他
8. 事後学習	Appendix 2 参照

セッションIII「子どもの支援（指導の実際）」 効果的な指導を行うための教材・教具について選択することができる」ことをねらいとして、子どもの実態に応じた具体的な指導と評価について、教材の選定・工夫、指導方法などから考える（Table 3）。

Table 3 セッションIIIの研修計画

1. 日時	2018年12月12日(水) 18:00～20:00
2. 場所	A大学 ICTクラスルーム
3. テーマ	子どもの支援(指導の実際)
4. ねらい	効果的な指導を行うための教材・教具について選択することができる
5. 研修内容	子どもの実態に応じた具体的な指導と評価について、教材の選定・工夫、指導方法などから考える
6. 事前学習	特総研の「支援教材ポータルサイト」から、教材や事例を検索して支援教材リストを作成してみる ・子どもの困難さに応じた教材・教具の選定の情報源を広げ、選択することができる
7. 当日演習 (主な内容・資料)	(1) 事前学習の確認 ・支援教材リストに挙げた教材の活用方法をタブレットで具体的に提示し、教材選定のポイント(選定方法・大切にしたいこと・留意事項等)を話し合う (2) 本日の演習 ①大学教員の実践を知ると共に、交流学級や在籍学級でのICT・アプリの活用置き換えて考える。 ②実際にアプリの操作を体験しながら、今後の指導場面における活用の可能性について話し合う。 (3) 事後学習の情報について知る ・教育センター研究成果, 関連書籍 他
8. 事後学習	Appendix 3 参照

セッションIV「子どもを支える（連携）」 子どもや保護者との信頼関係につながる姿勢や方法を知ることをねらいとして、カウンセリングの基本的な知識や方法について知り、子どもや保護者との信頼関係につなげる方法について学ぶ（Table 4）。

Table 4 セッションIVの研修計画

1. 日時	2019年1月16日(水)18:00～20:00
2. 場所	A大学 ICT クラスルーム
3. テーマ	子どもを支える(連携)
4. ねらい	子どもや保護者との信頼関係につながる姿勢や方法を知る
5. 研修内容	カウンセリングの基本的な知識や方法について知り、子どもや保護者との信頼関係につなげる方法について学ぶ
6. 事前学習	(特総研 Web) 専門編 0004 「特別支援教育におけるカウンセリング技法」 ・カウンセリングの意味とその基本的な方法について知る
7. 当日演習 (主な内容 ・資料)	(1)事前学習の確認 ・事前学習の内容について用語を確認し、特に「コンサルテーション」に関する大学教員の解説を聞く (2)本日の演習(子どもや保護者との信頼関係づくりを考える) ①言語によるコミュニケーション(保護者・教師・観察者の3役を交代しながら分担し面談を行う) ②非言語によるコミュニケーション(2人での無言のやりとりを通して感じるということについて話し合う) (3)事後学習の情報について知る ・アートセラピーの実践例、関連書籍 他
8. 事後学習	Appendix 4 参照

効果評価の査定

各セッション終了時には、その日の研修内容に関する受講者の満足度等について、自由記述も含む「研修後アンケート」を求めた。また、研修の全体の効果を測るための「全体アンケート」を作成し、各受講生が初めて参加したセッションの前と、セッションIV終了の1か月後に、全ての受講者に対して特別支援教育専門性尺度(日野他, 2020)に回答を求めた。

結果

まず、各セッションの「研修後アンケート」(得点は1～4点)の結果をTable 5に示す。事前学習に関する項目1, 2では得点が3点前後とやや低いが、その他の当日研修に関する項目の結果からは内容の理解度、満足度、力量の向上、事後学習への関与などについて高い点数となった。

次に、「全体アンケート」の回答の中から、セッションIとIVの両方に参加した受講者を対象として、特別支援教育専門性尺度の得点を研修前(セッションI開始前)と研修後(セッションIV終了の1か月後)で比較した(Table 6)。その結果、4つの因子のうち3つ(特別支援教育や障害全般に関する知識や理解、子どもの指導の計画と実践、教材の作成や活用)で有意差が見られ($t(11)=2.71, p<.05$; $t(11)=3.83, p<.01$; $t(11)=2.31, p<.05$)、いずれも研修後の得点が高くなっていた。

Table 5 各セッションに対する受講生の評価

		セッションⅠ： 子どもの理解 (アセスメント)	セッションⅡ： 子どもの指導 (自立活動)	セッションⅣ： 子どもの支援 (指導の実際)	セッションⅤ： 子どもを支える (連携)
受講者数		11名	17名	15名	12名
1	示された事前学習に取り組んで本日の研修に臨むことができた。	3.10 (0.79)	2.87 (0.88)	3.00 (1.00)	3.00 (0.93)
2	事前学習は本日の研修を深めるのに有効であった。	2.72 (0.75)	2.87 (0.81)	3.30 (0.90)	2.93 (0.96)
3	本日の研修に積極的に取り組むことができた。	3.45 (0.50)	3.13 (0.72)	3.80 (0.40)	3.64 (0.72)
4	本日の研修内容を理解することができた。	3.55 (0.50)	3.13 (0.62)	3.40 (0.66)	3.57 (0.49)
5	これまで知らなかった考え方や実践方法を学ぶことができた。	3.64 (0.64)	3.40 (0.71)	3.90 (0.30)	3.50 (0.63)
6	本日の内容は特別支援教育担当教員が直面する諸状況や課題を取り上げたものであった。	3.36 (0.48)	3.73 (0.44)	3.60 (0.49)	3.93 (0.26)
7	本日の内容は特別支援教育担当教員としての実践に役立つ内容であった。	3.36 (0.64)	3.26 (0.57)	3.90 (0.30)	3.93 (0.26)
8	本日の研修を通して今後の教育実践に主体的に取り組む意欲がわいた。	3.55 (0.50)	3.53 (0.62)	3.90 (0.30)	3.79 (0.41)
9	本日の研修は自身の力量の向上に有効であった。	3.44 (0.50)	3.33 (0.70)	3.90 (0.30)	3.85 (0.35)
10	事後学習として自分で取り組みたいことがある。	3.27 (0.62)	3.40 (0.61)	3.70 (0.46)	3.71 (0.45)

Table 6 特別支援教育の専門性に関するアンケート

因子		研修前	研修後	t 検定結果
第 1	特別支援教育や障害全般に関する知識や理解	2.45 (0.62)	2.67 (0.60)	$t(11) = 2.71, p < .05$
第 2	子どもや保護者との信頼関係	2.84 (0.54)	2.93 (0.31)	n.s.
第 3	子どもの指導の計画と実践	3.03 (0.60)	3.45 (0.61)	$t(11) = 3.83, p < .01$
第 4	教材の作成や活用	2.42 (0.49)	2.63 (0.27)	$t(11) = 2.31, p < .05$

考 察

本研修プログラムの受講者は特別支援教育の経験や担当している障害種も様々であるため、事前学習として特総研の研修講座を視聴した上で参加してもらい、研修のスタートに講座内容に対する確認や質問から入るなどの工夫を行なった。そうすることで専門性のレベルにばらつきのある受講者の研修をスムーズに行うことができると考えた。受講者の研修後アンケートの自由記述には、「事前学習があった事で、今日何を学ぶのか見通しを持つ事ができ、目的意識が持てた。」「特総研の研修ビデオの充実ぶりに学ぶ意欲がわいた。」「事前に予習をするスタイルの研修は有効であると思った。」などが見られた。今回用いた事前学習の題材は、特総研の Web 配信講座であったため、受講する時間や場所など各自の都合に応じて活用できたのも、利点としてあげられるであろう。ただ、事前学習に関するアンケート項目 1, 2 の評価得点は 3 点前後であり、他の項目に比べて低くなっている。多忙な教育活動の中での受講時間の確保や受講者のネット環境の調整なども今後考えていく必要がある。

当日研修では、子どもの困難さを疑似体験することや、実際に自立活動の指導計画を作成すること、具体的な教材・教具を受講者が互いに紹介し合ったり iPad を操作したりすること、保護者との面談場面をロールプレイで体験することなどの演習が含まれた。受講者の「全体アンケート」の自由記述には、「特別支援教育にたずさわる多くの先生方と協議をする時間があり、自分にはない視点から取り組みを知ることができた。もう少し時間があると深い話ができたと感じる。」「自立活動や保護者との連携づくりなど演習と講義が組み合わせてあったことで、主体的に学ぶことができた。今後もこのような研修があったら受講したい。」「短い時間だったが事前学習をして臨むことで、又、主体的に参加する研修ということで集中して取り組めたと思う。研修を受けることで、自身の意欲を高める（持続）ことができると思った。」「研修で基本や基礎から応用まで学ぶことができてよかった。また、他校の先生と情報交換ができ、とても参考になった。」などが見られた。今後の教員の研修スタイルとしては、事前学習でも取り入れたようなオンライン研修なども十分考えられ、その成果も期待できる。一方、今回の当日研修は、対面研修の形式をとった。この結果から、その場での受講者同士の情報交換や感情を共有することを通して学ぶことに価値があることも確認された。特に、特別支援教育においては、障害や特別な教育的ニーズを持つ子ども一人一人の状態を把握しながら関わっていくことが必要であるため、このように教師自身が対面の場を通して感じることは大切にしたいと考える。

また、当日研修から続く事後学習についても、自己研修として取り組めるようにその資料や情報を提供した。Table5 の項目 10 の得点からも自己研修への意欲の高さがうかがえ、全体アンケートにも「実践を共有できる場であったことが有難く感じた。映像配信や書籍等を紹介していただいたことが、参考になった。」「特総研の Web に今まで触れたことがなく、今後の資料さがしや困った時に役立つと思う。」などの自由記述が見られた。当日研修で高まった自己研修への意欲を実際の教育実践まで持続させることが、特別支援教育の専門性向上につながると思われる。

まとめと今後の課題

本研究では、特別支援教育の充実を図るべく、日野他（2020）の4因子に基づき、特別支援教育担当教員を対象とした研修プログラムを開発した。「研修後アンケート」の自由記述では、本研修プログラムの構成にあたって意図したことに関して、期待したような内容が得られた。また、特別支援教育専門性尺度の得点の高まりから、「何を学ぶのか、どのように学ぶのか」、ということを確認に示し、その方策を受講生自身が持つようにすることが、研修の満足感だけでなく、専門性向上へとつながることが示唆されたと考える。このような研修の在り方は、特別支援教育に関する通常教員への基礎的な知識・技能の習得を図るための研修にも活かせると思われる。

今回、4つのセッションからなる研修プログラムを計画し一通り実施する中で、少人数の受講者ではあったが期待した結果が得られたと考える。今後は、県内各地のA大学サテライトキャンパスの活用や、土曜日に2つのセッションを続けて行う等、会場や研修時間帯に配慮した計画を立て、より多くの教員が参加しやすい工夫をして研修の規模を広げ、さらに効果的な研修プログラムの開発につなげたい。

<付記>

ご協力くださいました先生方に深く感謝申し上げます。

なお、本研究は日本学術振興会科学研究費助成事業（課題番号 17K18655）の助成を受けた。

Appendix 1. 事後学習で用いる「自己学習カード」(セッションI)

自己学習カード 【セッションI：〇〇キャンパス 2018.11.14(水)】 氏名()

研修の主なねらい	事後の自己学習 参考資料 (※) …本日の研修で紹介	メモ
<p>1</p> <p>・効果的なアセスメントができる。</p>	<p>○各種検査 (例) (※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中ビネー：個別知能検査、精神年齢・生活年齢の比較 ・WISC-IV：個別知能検査、言語理解等多面的に把握 ・KABC-II：認知特性(同時処理・継次処理)と習得度 ・LDI-R：LDのスクリーニング (教師が記入) ・S-M：社会生活能力 (教や保護者が記入) ・WAVES、STRAW：読み書きの能力 <p>○日頃の観察のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身辺自立の状況 (※) ・ノートや作品、提出物 ・行動 (困難な様子) ・友だちや教師との関わり ・休み時間の過ごし方 など <p>○特総研ネット配信講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎編： ・専門編： 	
<p>2</p> <p>・専門機関 (医療や福祉 など) につないだり、自分がつながったりして連携をとることができ。</p>	<p>○情報交換のツール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受診時の情報提供例 ・アセスメント依頼時の情報収集様式例 <p>○専門機関の情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療 ・福祉 ・行政 <p>○特総研ネット配信講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎編： ・専門編： 	
<p>3</p> <p>・自分の担当している障害の特性や困難さを理解している。</p>	<p>○障害の定義や診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援資料 (※) ・DSM-V ・ICD-10 <p>○特総研ネット配信講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎編： ・専門編： 	

Appendix 2 事後学習で用いる「自己学習カード」(セッションII)

自己学習カード 【セッションII：〇〇キャンパス 2018.11.28(水)】 氏名()

研修の主なねらい	事後の自己学習 参考資料 (※) ……本日の研修で紹介	メモ
<p>1</p> <p>・個別の指導計画や教育支援計画を作成することができる。</p>	<p>事後の自己学習 参考資料 (※) ……本日の研修で紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領 ・中学校学習指導要領 各教科解説 ・特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 (※) ・宮崎英憲 「平成29年度版学習指導要領改訂のポイント」特別支援学校 明治図書 2017 (※) ・上野一彦 「平成29年度版学習指導要領改訂のポイント」通常の学級の特別支援教育 明治図書 2017 (※) ・佐賀県教育センター トップ > 相談・支援 > 特別支援教育 > 個別の指導計画 ・佐賀県教育センター トップ > 相談・支援 > 特別支援教育 > 「個別の教育支援計画」作成支援ソフト ・佐賀県教育センター トップ > 授業に役立つ実践研究 > 29年度の研究成果 小・中学校 特別支援教育 「小・中学校におけるインクルーシブ教育システム構築のための取組 - 個別の教育支援計画及び個別の指導計画を活用した合理的配慮の実践 - (2年次/2)」 	<p>○特総研ネット配信講座 (※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎編: ・専門編:
<p>2</p> <p>・自立活動の指導計画を作成することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校学習指導要領解説「自立活動編」 (※) ・図2 (流れ図) p28-31 (※) ・図2 をふまえた例示 (図3～図15) p32-39 ・配付資料 (PP資料) (※) ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 平成26～27年度専門研究B 「特別支援学級における自閉症のある児童生徒の自立活動の指導に関する研究」リーフレット (※) 	<p>○特総研ネット配信講座 (※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎編: ・専門編:
<p>3</p> <p>・自立活動の指導を行うことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月森久江 「教室でできる特別支援教育のアイデア」小学校編 他各種 図書文化 ・藤田和弘 「長所活用型指導で子どもが変わる」 Part 1～5 図書文化 ・山本淳一 「応用行動分析で特別支援教育が変わる」 図書文化 ・上野一彦 「実践 ソーシャルスキルマニュアル」 明治図書 2006 他 書籍多数有り 	<p>○特総研ネット配信講座 (※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎編: ・専門編:

Appendix 3 事後学習で用いる「自己学習カード」(セッションⅢ)

自己学習カード 【セッションⅢ：〇〇キャンパス 2018.12.12(水)】 氏名()

研修の主なねらい	事後の自己学習 参考資料 (※) …本日の研修で紹介	メモ
<p>1</p> <p>・子どもの特性に応じた教材の作成や選定ができる</p>	<p>事後の自己学習 参考資料 (※) …本日の研修で紹介</p> <p>・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 関連リンク > 支援教材ポータル > 教材・支援機器を探す > 実践事例を探す > 教材・支援機器に関する情報</p> <p>・ (岩手県立総合教育センター：発音指導教材・タブレット学習用Webアプリ他)</p> <p>・ (神奈川県立総合教育センター：かながわ授業のタネ)</p> <p>・ (愛知県総合教育センター：自作教材教具集)</p> <p>・ (滋賀県総合教育センター：特別支援教育)</p> <p>・ (京都府総合教育センター：特別支援教育>研究・教育コンテンツ>タブレット端末を活用した教育実践データベース) (※)</p> <p>・ (福岡県教育センター：特別支援教育部特別支援教育教材・教具動画コンテンツ)</p> <p>・ (長崎市教育研究所：へ生26年度特別支援教育リーダー研究会～自作教材作成例～)</p> <p>・ 佐賀県教育センター トップ > ICT利活用支援</p>	<p>○特総研ネット配信講座 (※)</p> <p>・基礎編：</p> <p>・専門編：</p>
<p>2</p> <p>・子どもの指導方法の一つとして、ICT教具を活用することができ</p>		<p>○特総研ネット配信講座 (※)</p> <p>・基礎編：</p> <p>・専門編：</p>

Appendix 4 事後学習で用いる「自己学習カード」(セッションIV)

自己学習カード 【セッションIV：〇〇キャンパス 2019.1.16(水)】 氏名()

研修の主なねらい	事後の自己学習 参考資料 (※) …本日の研修で紹介	特総研ネット配信	メモ
<p>1</p> <p>・子どもとの信頼関係を築くことができる</p>	<p>○アートセラピー (学校での実践例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐賀県教育センター > 授業に役立つ実践研究～学力向上支援～ > これまでの研究成果へ 授業に役立つ実践研究 > 平成16年度の研究成果 > 小学校教育相談・生徒指導「言葉より、まず心の対話～話さない、話せない、話したがらない子へのアプローチ」 ・高等学校教育相談・生徒指導「やってみよう！すぐ使える不登校生徒へのアプローチ法」 <p>○書籍</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品川裕香「心からのごめんなさいへ」中央法規 2005 ・小泉吉宏「コブタの気持ちもわかってよ」幻冬舎 2002 	<p>○特総研ネット配信</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座 ・基礎編： ・専門編： 	
<p>2</p> <p>・障害のある子どもを育てる保護者を理解し、信頼関係を作ることができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県教育センター > 「子供のよりよい成長のためにつなぐ・つながるための保護者連携ハンドブック」 ・日本ベアレント・トレーニング研究会 > 研究会の活動と文献情報 ・「LD、ADHD&ASD No58 7月号 特集=保護者と協力して子どもを支えよう」明治図書 2016.7.1 (※) ・たばた せいいち「さっちゃんのまほうのて」偕成社 1985 	<p>○特総研ネット配信</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座 ・基礎編： ・専門編： 	

引用文献

- 秋元雅仁, 落合俊郎 (2009): 「LD・ADHD 等の心理的疑似体験プログラム」を活用した研修の有効性に関する考察. LD 研究, **18** (2), 189-196.
- 藤原里美 (2013): 発達障害児への保育実践能力に関する研究—専門機関の実践研修を受講した研修生の視点から—. 保育学研究, **51**, 57-68.
- 韓 昌完, 小原愛子, 上月正博 (2014): 特別支援教育成果評価尺度 (SNEAT) の開発. *Asian Journal of Human Services*, **7**, 125-134.
- 日野久美子, 井邑智哉, 納富恵子, 中山 健 (2020): 特別支援教育専門性尺度の作成と検討. 佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要, **4**, 10-17.
- 本間 貴子, 稲本 純子, 田丸 秋穂, 氣仙 有実子, 鎌田 ルリ子, 米田 宏樹 (2019): 文部科学省中央教育審議会答申・報告にみるインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育教員研修の動向, 筑波大学学校教育論集,**41**,39-50.
- 保坂俊行, 保坂美智子 (2008): LD 等の発達障害の理解のための疑似体験ワークショップにおける「新版 LD・ADHD 等の心理的疑似体験プログラム」の検討—参加者による評価アンケートの分析—. LD 研究, **17** (3) ,374-383.
- 保坂俊行, 保坂美智子 (2014): LD 等の発達障害の理解のための疑似体験ワークショップにおける「新版 LD・ADHD 等の心理的疑似体験プログラム」の検討—参加者による自由記述を含めた評価アンケートの分析—. LD 研究, **23** (2), 187-198.
- 文部科学省中央教育審議会 (2012): 教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について (答申), 文部科学省
- 文部科学省 (2020): 特別支援教育資料 (令和元年度), 文部科学省
https://www.mext.go.jp/content/20200916-mxt_tokubetu02-000009987_02.pdf (2021.1.10 閲覧)
- 岡本邦広 (2017): 障害のある子どもの指導・支援に関する研修の研究動向. 特殊教育学研究, **55** (4),233-243.
- 迫田裕子, 納富恵子, 吉田茂孝 (2014): 特別支援教育にかかわる教員の研修ニーズに関する研究—教職キャリア段階と特別支援学級・通級指導教室担当経験の有無に着目した分析—. 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報, **4**, 17-24.
- Sharma, U., Loreman, T., Forlin, C. (2012): Measuring teacher efficacy to implement inclusive practices. *Journal of Research in Special Educational Needs*, **12**, 12-21.
- 竹林地毅 (2014): 小学校特別支援学級担当者の専門性向上に関する調査. 広島大学特別支援教育実践センター研究紀要, **12**, 75-82.
- 柘植雅義 (2013): 特別支援教育—多様なニーズへの挑戦—. 中公新書.
- 柘植雅義, 飯島知子, 中山 健 (2009): 教員養成系大学学部生向け「特別支援教育に関する授業」の効果に関する実証的研究—現職教員向け研修会の効果と比較して—. 兵庫教育大学研究紀要, **35**, 65-77.
- 渡邊雅俊 (2016): 特別支援教育教員養成課程に在籍する大学生の教師効力感の特徴—知的障害児対応教師効力感による検討—. 國學院大學紀要, **54**, 73-85.
- 山中友紀子, 吉利宗久 (2010): 特別支援学校教諭免許状の取得を希望する教員の免許制度に対する意識とニーズ. 岡山大学教育実践総合センター紀要, **10**, 41-46.

(2021年1月29日 受理)